

いぶろう にゅうす

2008.6月号

編集・発行／リプロネットみやぎ

CONTENTS

- 2008年度通常総会成立
- 2008年度会員研修会

梅雨空が続く今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしですか？

さる 2008 年 5 月 22 日(木)、アエル 28 階 エル・ソーラ仙台 大研修室において「2008 年度リプロダクティブ・ヘルス／ライツネットワークみやぎ通常総会」が開催されました。①2007 年度事業報告並びに決算、②2008 年事業並びに予算、③2008 年度役員並びに会計監査の選出について等、参加者が過半数に達したことにより(委任状を含む)総会は無事成立了しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

その後の会員研修会では、精神科医である浅野弘毅先生より、「『うつ』をめぐる最近のエピソード」についてご講演いただきました。参加人数は 59 名で、会員の他に当事者の方のご参加も多くみられました。以下、講演内容について、簡単にご紹介いたします。

2008 年度 リプロネットみやぎ会員研修会 & 公開セミナー

『うつ』をめぐる最近のエピソード

講師：浅野弘毅先生（東北福祉大学せんだんホスピタル院長）

浅野弘毅先生は多くの臨床経験を持ち、診療を通してみてきた「うつ」の現状について、最近の社会的背景も踏まえながら語った。

うつ病の診断基準は、「発病は緩徐で 2~4 週間かけて進み、次第に元気がなくなりうつ、悲哀感に包まれる。思考は抑制され、興味関心が失われ活力が感じられなくなる。行動抑制も顕著で意欲も失われる」であるが、近年、従来のうつ病とは異なる「現代型うつ病」が増えてきているという。浅野先生は、これまでの典型的なうつ病について、「性格はメランコリー親和型（実直、律儀、几帳面で他人に対する気配りがきき、過度に良心的）で、発病前の社会適応は良好であり、治療意欲が高い。また、抗うつ薬によく反応し経過は概して良好である」と述べた。しかし、現代型うつ病は、「パーソナリティ要因（依存性・対人過敏性・社会規範志向の乏しさ）が発症に深く関わっており、学校には行けないがバイトには行けるなど、選択的な抑制を示す。また、過眠・過食・慢性的な疲労などを呈し、抗うつ薬に反応せず慢性化する傾向がある」と指摘した。その中で「長引くうつ病に

は、心理的“休息”中心から“社会参加”に重点を移した急性期とは異なる対応が必要である」と強調した。従来のメランコリー親和型うつ病は、第二次世界大戦後から1970年代にかけて戦後復興や高度経済成長の時代に多くみられた。一方現代型うつ病は、1980年代以降の新自由主義・大量消費の時代に発症し始め、近年では後者の増加が顕著であるという。浅野先生は「このような時代的変遷を示すうつ病の背景には、私たちを取り巻く環境の変化が大きく関連している」と述べた。「少子化・核家族化により家族関係は濃密になり、その一方で地域共同体の解体が進み、疎遠な人間関係が形成されている」ことや、「物質的な豊かさを得たが、その一方で心のふれあいがなく、幸せの実感が得にくい」こと、また「家族機能が社会化される中で、冠婚葬祭なども家庭の外で行われるようになり、共に苦しみ、悲しみの感情を共有することができなくなった。共楽の体験は共同性の質において共苦を超えない」など、具体例も挙げながら説明した。

わが国の自殺率は先進国の中でもトップクラスであり、1998年以降の年間自殺者は3万人を超えている。これは交通事故の約5倍の数字であり、加えて自殺未遂者はその10倍存在しているという危機的状況だ。このような背景を受け、2000年厚生労働省より「自殺予防の10力条」が出されたが、筆頭項目には「うつ病の症状に気をつける」と示されている。

当事者の参加も多く、近年増加している「うつ」の問題について真剣に聞き入る聴衆で、会場内は熱気に包まれていた。後日、河北新報にも大きく取り上げられた(2008.6.3)。

【参加者の感想より(一部)】

- 病気になって1年以上になります。今まで家から出る事も「うつ」や「不安障害」という病名を聞くことも見る事も苦痛でした。やっと少しずつ受け入れられるようになり、今日もセミナー参加できた事は大きな1歩でした。自分の症状も確認できた有意義な時間になりました。ありがとうございました。
- 自分のフィールドでつまずき「うつ」となる傾向が強いこと。治療に対しての理解不足、対応の仕方等々、多くの学習をさせていただきました。
- 先生の話はユーモアがあり、わかりやすく理解できました。ヤマアラシのジレンマは実感できました。全くその通りですね。うつ病の体験はマイナスばかりではないどころか、プラスの経験に後でなると思います。喜びを感じられる生活…どんなに素晴らしいでしょうか。

編集後記

リプトネットみやぎは、いよいよ今年で10周年を迎えます。記念事業の開催や記念誌の作成を計画しておりますので、今後ますます役員・会員の皆様と力を合わせて取り組んでまいりたいと思います。



現代型うつ病の特徴

- パーソナリティ要因(依存性・対人過敏性・社会規範志向の乏しさ)が発症に深く関わっている。
- 選択的な抑制を示す。
- 過眠・過食・慢性的な疲労などを呈する。
- 「うつ」の増加は現代型うつ病の増加による。
- 現代型うつ病は抗うつ薬に反応せず慢性化する。
- 長引くうつ病には急性期とは異なる対応が必要である。

